

# 愛知県高校生訪問団バンコク都派遣事業 実施結果報告書



派遣期間：平成27年8月5日（水）～8月11日（火）

愛知県政策企画局国際課

## 目次

1	派遣者名簿	1
2	事前説明会・知事表敬訪問	2
3	バンコク都派遣	
	全体行程	3
	< 1日目(8月5日) >	4
	出国	
	バンコク都オリエンテーション	
	バンコク都知事表敬訪問	
	< 2日目(8月6日) >	6
	DAIWA KASEI(THAILAND) CO.,LTD. (DAT) 訪問	
	BANG PA IN PALACE (バーンパイン宮殿) 視察	
	< 3日目(8月7日) >	7
	プラチャーニウェート高校訪問	
	< 4日目・5日目(8月8日・9日) >	11
	ホームステイ	
	< 6日目(8月10日) >	14
	Wat Phra Kaew (ワット・プラケオ) Grand Palace (王宮) 視察	
	MKB センター&サイアムパラゴン散策	
	終了式	
	< 7日目(8月11日) >	15
	帰国	
4	派遣高校生報告書	16
	(参考)	
	「愛知県高校生訪問団バンコク都派遣事業」参加者アンケート	47

## 1 派遣者名簿

### 高校生(10名)

	学校名	氏名	学年	性別
1	千種	ふくた りの 福田 梨乃	3年	女
2	瀬戸西	やながわ ゆうか 柳川 結香	2年	女
3	瀬戸西	さわさき あや 澤崎 礼	2年	女
4	一宮西	わたなべ さきほ 渡邊 彩希帆	1年	女
5	一宮西	やすだ ななこ 安田 菜々子	1年	女
6	豊田北	かわかみ なつみ 川上 夏海	2年	女
7	西尾	いとう あまね 伊藤 周	2年	男
8	刈谷北	さかい ゆいし 酒井 惟司	2年	男
9	刈谷北	あおき しのぶ 青木 志薫	2年	女
10	豊橋東	わたなべ ななみ 渡邊 かなみ	2年	女

### 引率者(3名)

	所属	役職	氏名	性別
1	愛知県国際課	課長	ひらた まこと 平田 誠	男
2	愛知県国際課	主査	ながた ごう 永田 豪	男
3	岡崎北高校	教諭	ひろせ やえこ 広瀬 八重子	女

## 2 事前説明会・知事表敬訪問

### <事前説明会>

日時：平成27年7月7日（火）14時～16時20分

場所：あいち国際交流プラザ「研修室2」

内容：自己紹介、渡航概要説明、グループワーク、タイ語勉強会



### <知事表敬訪問>

日時：平成27年7月7日（火）16時40分～17時

場所：愛知県公館

内容：自己紹介・抱負、知事挨拶、記念撮影



各生徒は、自己紹介の後、それぞれ派遣の抱負を発表しました。  
知事からは、「日本とは違う文化に触れ、大いに視野を広げていただきたいと思います。  
元気で頑張ってきてください！」と激励の言葉がありました。

### 3 バンコク都派遣

全体行程：平成 27 年 8 月 5 日（水）～8 月 11 日（火）

行 程		宿泊
8/5 (水)	08:30 集合（中部国際空港 3F 出発ロビー「案内所」前） 10:20 中部国際空港発（JL737） 13:55 スワンナプーム国際空港着 16:00 オリエンテーション（バンコク都庁） 17:30 バンコク都知事表敬訪問 19:00 夕食（ヨートピーマン・リバーウォーク） 19:30 ホテルチェックイン	ホテル
8/6 (木)	10:00 愛知県進出企業（DAIWA KASEI）訪問 12:00 昼食（アユタヤ） 13:00 Bang Pa In Palace（バーンパイン宮殿）視察 18:00 夕食	ホテル
8/7 (金)	09:00 バンコク都立プラチャーニウェート高等学校訪問 18:00 夕食&アジアンティーク散策	ホテル
8/8 (土)	終日 ホームステイ（08：00 ホテル発）	ホーム ステイ
8/9 (日)	終日 ホームステイ（17：00 ホテル着）	ホテル
8/10 (月)	09:00 ワット・プラ・ケオ（王宮寺院）見学 12:00 昼食（リバーサイド） 13:00 MBK センター&サイアムパラゴン散策 17:00 ホテルチェックアウト 19:00 夕食 22:00 スワンナプーム国際空港着	機中泊
8/11 (火)	00:25 スワンナプーム国際空港発（JL738） 07:45 中部国際空港着 解散（中部国際空港 2F 国際線到着ロビー案内所前）	-



1日目：8月5日（水）

< 中部国際空港集合 >

時間：8時30分集合

場所：中部国際空港 3F 出発ロビー「案内所」前



< バンコク都オリエンテーション >

時間：16時～

場所：バンコク都庁知事会議室

内容：バンコク都国際課長による全体日程等説明、ホストファミリーとの面会



（バンコク都ノンラック国際課長）



ホストファミリーのうち半数がバンコク都職員

< バンコク都知事表敬訪問 >

時間：17時30分～18時

場所：City Hall

内容：バンコク都知事挨拶、愛知県国際課長挨拶、愛知県高校生自己紹介、  
愛知県高校生代表挨拶、記念品交換、記念撮影

～バンコク都知事挨拶～

今回、初めて愛知県の高校生のみなさんをバンコクで受入れることができたことを非常に嬉しく思います。バンコクでは高校訪問やホームステイなど様々な交流プログラムを用意しており、是非交流を深めてください。また、タイの日本とは違う文化にたくさん触れていただき、タイに再び訪問してくれることを願っています。

本年10月には、バンコク都の高校生が愛知県を訪問しますが、このような交流を続けていくことが両地域の絆をさらに深めていくと確信しています。是非、今後も引き続き相互交流を続けていきたいと思っています。



スクムパン都知事から、愛知県高校生全員へトウクトウクの置物が記念品として一人ひとりに手渡されました。





2日目：8月6日（木）

< DAIWA KASEI (THAILAND) CO., LTD. (DAT) 訪問 >

時間：10時～11時30分

場所：DAT 工場（アユタヤ）

相手方：加藤 SGM、三味 GM、Yunyong GM

内容：DAT 会社概要説明、工場見学、大洪水(2011年)の DVD 鑑賞、質疑応答



< BANG PA IN PALACE（バーンパイン宮殿）視察 >

時間：13時30分～15時30分

場所：BANG PA IN PALACE（アユタヤ）

内容：17世紀アユタヤ王朝のプラサート・トーン王によって建造された夏の避暑用離宮を視察。



DAT では、タイ人と一緒に働く時の難しさや喜びは何があるのかなど派遣高校生から質問が多数出ました。DAT から、コミュニケーションの大切さ、価値観の違いを知ることや、そのためにタイ語も勉強していることなどが話されました。



3日目：8月7日（金）

< プラチャーニウェート高校訪問 >

時間：9時～16時

場所：プラチャーニウェート高校訪問

内容：歓迎式典、授業体験、スポーツ体験、送別会

高校訪問は、歓迎会や送別会など一部のメニューが福岡県からの高校生訪問団と合同で行われた。

【お出迎え】



【歓迎セレモニー】





【仏教授業の体験】



【日本語授業の体験】



【昼食の様子】



【数学授業の体験】





【ダンス & 音楽授業の体験】



【スポーツ交流】



【スポーツ交流 (応援合戦)】



## 【送別会】



プラチャーニウェート高等学校に到着すると、まず、派遣生徒一人ひとりの一日のお世話をしてくれるバディがお出迎えしてくれました。全校生徒による歓迎会では、派遣生徒は壇上でタイ語と英語で挨拶をした後、バンコクの生徒と一緒に歓迎のタイ舞踊などを踊りました。

授業体験では、日本にはない「仏教」の授業体験のほか、日本語授業も体験し、日本の生徒はタイ語で、バンコクの生徒は日本語で挨拶をする練習を行いました。また、数学の授業では、日本の教え方には無い三角関数の解き方に生徒は興味津々でした。

スポーツ体験ではシェアボール（日本で言うポートボール）を行いました。ハーフタイムなどでは、バンコクの生徒による応援合戦が行われるなど大変盛り上がりました。

送別会において、派遣高校生は感謝の意をこめて「ソーラン節」を全員で踊りました。事前に Line で連絡を取り合いながら各個人が練習し、宿泊先のホテルでも 1 日のスケジュール終了後にロビーに集合して練習を重ねていました。披露後は、バンコクの高校生から大きな拍手をいただきました。

派遣高校生は、同世代の交流にとっても感激し、別れ際には涙を流すなど、大変意義深いものとなりました。



4・5日目：8月8日（土）～9日（日）

<ホームステイ>

高校生	ホストファミリー
福田梨乃、柳川結香	Mrs. Chanram Kittayanukul
澤崎礼、渡邊彩希帆	Mrs. Thapanee Chamriangrit
安田菜々子	Mrs. Sanharos Kanamuk
川上夏海	Mrs. Somluck Tammarat
伊藤周、酒井惟司	Mr. Vatcharaphong Tamthong
青木志薫	Mrs. Wanida Lertsukekasem
渡邊なな実	Mrs. Kanjana Suttivichai

～ホームステイの様子～

Mrs. Chanram Kittayanukul & 福田梨乃・柳川結香



Mrs. Thapanee Chamriangrit & 澤崎礼・渡邊彩希帆



Mrs. Sanharos Kanamuk & 安田菜々子



Mrs. Somluck Tammarat & 川上夏海



Mr. Vatcharaphong Tamthong & 伊藤周・酒井惟司





Mrs. Wanida Lertsukekasem & 青木志薫



Mrs. Kanjana Suttivichai & 渡邊なな実



ホームステイ先では、派遣生徒は様々な体験をしました。

水上マーケット、象乗り、寺院の参拝、海でのアクティビティなどタイの文化等を体験できるいろいろな場所にホストファミリーが連れて行ってくれました。中には、ニューハーフショーにも……。また、ホストファミリーと一緒にタイ料理を作って食べたり、タイでは日常的な屋台での食事やバイクタクシーなど、日本では体験できないことも多く体験させてもらいました。

派遣高校生も、日本の文化を伝えようと、日本から筆や墨汁を持参し、書道を披露したり、扇子や日本のお菓子など様々なお土産をプレゼントしていました。

最初は、なかなか話せなかった生徒も、積極的に話しかけてくれるホストファミリーの温かさに触れ、どんどん会話が弾むようになっていきました。ホストファミリーとの別れの際にも多くの生徒が涙をながすとともに、一部のホストファミリーはサプライズで空港までお見送りに来てくれるなど、生徒にとってタイの家族となったようでした。

6日目：8月10日（月）

< Wat Phra Kaew (ワット・プラケオ) Grand Palace (王宮) 視察 >

時間：9時～11時30分

場所：Wat Phra Kaew、Grand Palace

内容：1782年、バンコク王朝の始祖であるラマ1世が着工し、歴代国王が増改築した王宮を視察。現国王は住んでいないが、祭典や迎賓館として利用されている。



< MBK センター & サイアムパラゴン 散策 >

時間：13時30分～16時

場所：MBK センター & サイアムパラゴン





< 終了式 >

時間：18 時～18 時 30 分

場所：TWIN TOWERS HOTEL ロビー

内容：バンコク都国際課長から派遣高校生へ終了証が渡された。



7 日目：8 月 11 日（火）

< 帰国 >



#### 4 派遣高校生報告書

	学校名	氏名
1	千種	福田 梨乃
2	瀬戸西	柳川 結香
3	瀬戸西	澤崎 礼
4	一宮西	渡邊 彩希帆
5	一宮西	安田 菜々子
6	豊田北	川上 夏海
7	西尾	伊藤 周
8	刈谷北	酒井 惟司
9	刈谷北	青木 志薫
10	豊橋東	渡邊 なな実

---

# Aichi-Bangkok

## High School Student Exchange Program 2015

千種高等学校 福田梨乃

---

Aug 5-11

### First day -arriving Bangkok-

私のバンコク街並みのイメージは、建物が全体的に低く、ぎっしり詰まっているようなイメージでしたが、空港から車に乗って見えた景色は想像を超える都会な街並みでビックリしました。建設中の高いビルが沢山あり、これからますます発展していく勢いが感じられました。

日本食レストランやセブンイレブンが街中に多くあり、バンコクで日本の文化が比較的浸透していることに驚きました。特にセブンイレブンは日本より多いのではないかと思うくらい沢山ありました。

### DAIWA KASEI CO,LED

工場見学で驚いたことの1つめは、女性の従業員の方が比較的多いことです。工場で働く方は男性が多いというイメージでしたが、女性の従業員もたくさんいらして、妊婦さん専用の仕事台などもありました。働く女性が多い理由を聞いてみると、タイ人女性は勤勉な方が多く、働き者であることが関係しているのではないかということでした。工場見学以外でも飲食店で妊婦のための制服を着ている女性がいたり、女性にとって安心して働きやすい環境が整っているなと思いました。

2つめは、従業員の意見を取り入れる制度が整っていることでした。意見カードというものがあり、工場の掲示板のようなところに張られていました。従業員がより働きやすい環境づくりがされているなと思いました。言葉も文化も違う方たちと仕事をする際は日本での常識をただ押し付けるだけでなく、歩み寄っていくことが大切ということがわかりました。

## Mathayom Prachaniwet School

welcome ceremony ではタイダンスのパフォーマンスがあり、私たちもダンスに参加しました。タイダンスはやってみると意外にしなやかな動きが難しかったですが、みんなと一緒に踊るととても楽しかったです。



印象に残っているのは数学の授業です。内容はサインコサインタンジェントについてでした。日本と違い図ではなく手を使って数値を導き出しました。既習内容でも違う方法で解いてみるのはすごくおもしろかったです。

同年代の子達との交流はとても楽しく、新たな刺激もありました。プラチャーニウエート高校のみんなはとても優しく、笑顔を絶やさず接してくれました。タイは微笑みの国と言われていますが、私が出会った人たちの笑顔はどれもビッグスマイルで、改めて笑顔は周りの人も幸せな気持ちにしてくれるなと思いました。

またタイの高校生に日本の文化を楽しんでもらうために、ハッピーを着てソーラン節の発表を行いました。途中から「ソーランソーラン」と一緒に掛け声を掛けてくれる子もいて嬉しかったです。





---

## Homestay

父、母、姉、妹の家族構成の家族にお世話になりました。お姉さんは英語、妹さんは日本語が堪能だったので、英語・日本語・タイ語を交えてコミュニケーションを取ることが出来ました。寺院やろう人形博物館、水上マーケット、ビーチなどに連れてってもらいました。移動中の車内ではタイ語を教えてもらったりしました。実際に教えてもらった言葉を私が話すと凄く喜んでくれたので、もっとタイ語を学びたい！という気持ちになりました。

出国の時にはサプライズで空港に駆けつけてくれました。たった2日間だったにも関わらず、次タイに来た時はまた家に来てね言ってくれたのがとても嬉しかったです。



## Summary

このプログラムを通じて、私はタイという国が大好きになりました。その大きな理由は、タイ人の温かさです。たくさんの素敵な出会いがあり、海外での醍醐味はその土地の美しい景色や美味しい料理を楽しむことだけでなく、その土地の人との関わりも魅力的だということに気づきました。

また、タイの人たちとコミュニケーションをとりたいという思いがより一層強くなったので、これからタイ語を少しずつ勉強して、いつかまたタイに訪れた時に今度は彼らとタイ語で会話ができるようになりたいと思っています。

---

実際に訪れたバンコクはわたしのイメージとはちがう新しい発見が沢山ありました。インターネットでなんでも情報が手に入る時代ですが、自らの目で見たり体験したりしないとわからないことのほうが多いと気づきました。なのでこれからも新たなことにチャレンジしていく姿勢をわすれないようにしたいと思います。

# Aichi – Bangkok Exchange Program



《愛知県・バンコク都 高校生交流事業》報告書

瀬戸西高校 柳川結香

## 大都会！バンコク

バンコクに来て、まず大きなビルがたくさん建っていたことに驚きました。私は、タイは小さな街というイメージが強かったのですが名古屋よりも都会です！その分、交通量も多くタイの方の日本よりも自由な運転に少しハラハラしていました。

バンコク在住日本人は約 65000 人にも及ぶそうです！そんな、日本人にも愛される国、タイにはどのような魅力があるのでしょうか…。



## 微笑みの国、タイ！

タイの方はとても温かいということを感じました。あいさつをするときも、お礼を言うときも、両手を合わせて言うことには感動しました。両手を合わせて「こんにちは」や「ありがとう」というと自然と笑顔になれるし、温かい気持ち

ちになれます。タイならではの素晴らしい文化だと思いました。

そして、8月は王妃様の誕生月なので街中に国旗が飾られ、イルミネーションでライトアップされていてとても綺麗でした。国王を敬い、国を愛している…そんなタイの文化は本当に素敵だと思います。



## 美しい建物。

バンコクには神社や王宮などの美しい建物がたくさんあります。ワット・プラ・ケオはとても煌びやかでタイで最も美しい寺院だと言われています。アユタヤは、西洋風や中国風の建物などが建っていてその一部は、女性はスカートを履いていなければ入れないなどの決まりがありました。露出が高かったり、ダメージジーンズだと入ることが出来ないという決まりがタイの寺院などにはあることに驚きました。それも日本には無い文化でとても興味深いなと思いました。



## タイの高校生、生活。

タイの高校生たちは、すごく日本に興味をもって来ています。日本語の授業を実際受



けましたが、みんな上手に話し、書くことが出来ていて驚きました。そして、リラックマが流行っていることや、日本のラーメンが好き！ということをお教えてくれました。実際、コンビニやスーパーなどに行くと日本のキャラクターやレストランが、タイに来たことを忘れさせるほどたくさんありました。それだけタイの方が日本を好きだと思ってくれるのは

すごく嬉しいことだと思います。

授業は、宗教、日本語、数学、タイ舞踊、体育に参加しましたが、授業は日本と比べると短く、自由な感じがしました。高校生の女の子たちは白いリボンを付けるので髪はみんな長くしているそうです。

学校でのお昼ご飯は給食です。量は好きなだけ取って食べきれなかったら残す、というのが普通みたいで、日本の残さずに食べましょう！とは違ったので面白いなと思いました。



## タイの魅力、言葉の魅力。

私は今回、タイに来て、まだここにいたい！もう一度ここに来たい！と思いました。そう思わせてくれるタイの魅力はやっぱり、人の温かさだと思います。自分も自然と笑顔になれる、温かい挨拶と笑顔、暮らしやすい環境、そして素敵な街並みも、タイの魅力です。

そして、コミュニケーション取るといふ素晴らしさを改めて実感しました。今回の派遣で、英語を学び、活用することは本当に大切なことだと気付きました。自分のことを伝え、相手のことを知る。これが出来ていなかったら、きっとこんなにタイのことを好きになることもなかったのではないかと思います。私は英語という言葉の魅力を改めて実感しました。

英語は世界中の人をひとつにしてくれる最高の道具です。



# わたしとタイと

バンコク都高校生派遣事業報告書

瀬戸西高等学校 澤崎礼

Saw a tdee ka!!

一週間、タイへ行ってたくさんの、書ききれないほどの経験をする事ができました。  
中でも特に驚いたこと、印象に残っていることを報告したいとおもいます。

## ☆タイの人たちはみんなあっタイ

一週間で私を虜にしたタイ、滞在していて一番思ったことは、とにかく人が温かい！  
そのことは、外で食事をしたとき、プラチャーニウェート高校でたくさんの学生と触れ合ったとき、ホームステイをしたとき…様々なときに感じる事ができました。



## ☆バンコクは名古屋より断然都会だった

はじめてタイへ行けることになったわたし。ものすごい覚悟をして支度をしました。

周りからは感染症とかに気を付けて、など色々なことを言われていたので。

が、その印象は一数時間後にガラリとかわり  
鳥が飛んでいたもの凄く広い空港、見たことのない高いビルの数々、たくさんの車、大きな広告…驚きを隠せませんでした。  
同時に、私にそんなことを言ってきた人たちに早く知らせてやりたいと強く思いました。



## ☆タイの人たちの皇后や王様を大切に思う気持ちは強かった

いくつかのショッピングセンターに行きましたが、そのどれもがじきに来る皇后の誕生日を盛大に祝っていました。

道路や、ホストファミリーの家でも皇后や王様の写真をよく見かけました。

ホストファミリーには、皇后の誕生日カラーの青色を使った帽子とTシャツをプレゼントしてもらえました。



### ☆いろいろなものが豪華だった

タイではその豪華さに驚きの連続。

移動する車の内装はピッカピカに光りVIPの文字に心が躍りました。

ショッピングセンターのトイレは大きな鏡がいくつも並び、

思わずトイレで写真を撮らずにいられませんでした。

何か所のトイレで写真を撮ったことが…私はその道のマニアではないのですが。

ワット・プラ・ケオでは金色の建物に目を奪われました。

なんて最高のOMOTENASHI!



### ☆タイの民族衣装を着タイんです！

民族衣装を何とかして着たかったわたし。

ホストファミリーにお願いしたところ、貸してもらえることに！

日本の着物も好きですが、この民族衣装は豪華で可愛くて素敵だったな～

たくさん写真を撮ってもらえました。民族衣装が二種類あるのも驚き。



### ☆タイの料理は絶品！！

タイの料理はおいしいと聞いていましたが、本当でした！  
中でも私のお気に入りには PADTHAI という日本でいう焼きそばみたいなものと、  
khai yat sai というひき肉やトマト、野菜の入ったタイ風オムレツ！  
ホストファミリーと作った料理もおいしかった～。  
薄焼き玉子の中にタイヌードルが入っているんです！また食べたいな～



### ☆今回の事業を通して…

タイのことが大好きになりました！私の第二の故郷だと胸を張って言えます！！  
プラチャーニウェート高校の学生との交流ではたくさんの友達を作ることができましたし、  
ホームステイでは新しい家族ができました。  
今でも連絡を交わしてお互いに日本語、タイ語を勉強できるのも最高です。  
他の9人の派遣高校生とも、将来の夢を語り合ったり、  
今回の派遣を通して自分の視野を広げることができました。  
今でも友達や先生、家族にタイの話が聞かれると、  
もう話が止まりません。  
ワット・プラ・ケオでは興味があった仏教美術の壁画をみることができましたし、  
派遣中英語やタイ語を話せたことで自信にもつながりました。  
またタイに行きタイ、タイ語を勉強したい、タイの文化を学びたい…  
あの日以来私の心はタイでいっぱいです。  
このような素晴らしい機会をくださり、本当にありがとうございました。  
また、二枚では書ききれずこのように長くなってしまい申し訳ありません。  
愛知県とタイの更なる発展を願います。







タイに行った初日には、まずバンコク都知事に会いに行きました。  
都庁の部屋に入って一番驚いた事はその部屋がとても豪華だったことです。

タイには華やかな作りのものが多いと聞いて  
いましたが、本当にその通りで椅子やテーブル、  
テーブルに置いてあったガラスのティーカップも  
上品な物でとても感動しました。

バンコク都知事さんは落ち着いた方で私たちに  
温かく迎えて下さってすごく嬉しかったです。  
そして最後にはタイのタクシーである  
「トゥクトゥク」の置物をいただきました。



二日目には愛知県からタイに進出している「大和化成」という企業の工場見学をさせていただきました。初めにその工場についての説明を受けましたが、工場を建てたその年に大洪水にあたり、社員さんの間でもタイ人と日本人の価値観の違いがあったりとたくさん抱えていたのに、今ではそれらを解決うまくやっていると聞いて、人がつながるには言葉だけではなく、コミュニケーションを取ることが大切なのだと感じさせられました。

三日目はプラチャニーウェート高校に行きました。バスで着いた時にわたしのボディであった「FORLY」が出迎えてくれました。初めて会ったのにとても積極的に話かけてくれ、彼女はわたしと  
同い年なのに英語の知識が豊富でした。

私たちは自分のボディたちと一緒に日本語の授業を受けました。その授業は、「起立、礼」から始まり日本人はタイ語でタイ人は日本語で自己紹介をお互いにし、それを使ったビンゴゲームをしました。終わりも「起立、ありがとうございました。」

と丁寧な日本語で終わっていて、日本語を大事  
にしてくれていると思いうれしくなりました。  
その後、昼食を食べている時や学校をまわって  
いる時など、簡単な日本語で話しかけてくれる人が  
たくさんいて、写真を撮りたい、握手をしたい



と言ってくれ、タイの人の温かさがにじみでている体験をたくさんしました。お別れのときも日本語の歌をみんなで歌ってくれたり、プレゼントをもらったり最初から最後まで楽しくてしょうがなかった思い出しかありません。

四日目と五日目はホームステイをさせていただきました。

ホームステイを受け入れたことはありましたが、自分がするのは初めてでしたのでとても楽しみでした。私が伺ったホームステイ先はお父さん、お母さん、双子の娘、その妹の五人での家族構成でした。ホテルに迎えに来ていただいたのは、父母、双子の娘さん二人とその彼氏さんの五人でした。



車の中では緊張して、なかなか積極的に話せませんでした。皆さんがたくさん質問してくれたのでだんだんじんんでいくことができました。

始めに、水上マーケットに連れて行っていただきました。ボートに乗って自分の見たい店を見つけたら、そこに船をとめて船の上から買い物をするという方式で、私はそこでココナッツジュースとパッタイというタイ料理を食べました。パッタイは、もやしや、やわらかいこんにゃくみたいなものが入っていて少し辛かったですが、とてもおいしかったです。その後は、第二次世界大戦のときに日本軍が建てたという橋を見に行きました。そのようなものが今も残っているのはすごいなと思いました。車の中では、ホストマザーが買ってきてくれたパイナップルやマンゴスチン、バナナ、みかんなどタイ原産の果物をたくさん食べました。夕食はとても景色がいいところでいただきとてもおいしかったです。翌日はホストファミリーと一緒に料理をしたりするなど家でゆっくり過ごしました。この二日間はあっという間に過ぎ、ホテルで別れるときは、とてもとても悲しかったです。



最終日は「ワット・プラ・ケオ」という王宮の見学に行きました。建物は全て金色で飾られ、タイらしさがでていました。また、ガイドさんにタイの王様の歴史などを聞いて想像していたものと全然違うなと思いました。



始めは、タイに行くことが少し怖くて不安でしたが、行ってみたらとてもいい国で、だれもが優しく一週間が本当にあっという間に過ぎていきました。私は、この体験でタイが大好きになり、また絶対に行きたいと思いました。タイの学校で知り合った友達やホストファミリーの会うために、いつか必ずタイに行きます。

## 愛知県高校生訪問団バンコク都派遣事業に参加して

愛知県立一宮西高等学校  
安田 菜々子

私は、去る平成27年8月5日から11日の日程で行われたバンコク都への派遣に参加しました。私にとって海外へ行くことが既に初体験であり、「大きすぎる」と両親に笑われるほどの期待を持ってその日が来るのを心待ちにしていました。以下に旅程に沿って感じたこと、思ったことを記します。

名古屋国際空港を早朝に離陸した私たちを乗せたジャンボジェットはあっという間にバンコクのスワンナブーム国際空港に着きました。そこでは、当たり前ですが日本よりも外国人がたくさんいて、これからの日本以外の文化との接触にとてもわくわくしました。そしてさっそくバンコク都知事表敬をしました。





日本進出企業のDAIWA KASEIの工場見学をしました。最初に現地で働く日本人の方に説明を受けました。そこでは、日本にはない洪水の被害の話聞いて気候が全然違うということに改めて気づきました。また、工場では地域の清掃活動をしたり、一人ひとりが問題点を考えるという取り組みについて聞きました。そのあとに、アユタヤのレストランに入りました。レストランでは、食材の周りにハエが飛んでいたり、隣の川に食べ残しを捨てていたりしてとても驚きましたが、帰国してから祖父にこの話をしたとき「日本でも（数十年前まで）当たり前にしてたなぁ」と言われた時はさらに驚きました。

アユタヤのバンパイン宮殿に行きました。自衛隊の隊員のような恰好をした人がたくさんいて、しかもみんな銃を持っていてびっくりしました。生活空間に銃があるというのは日本では考えられないからです。バンパイン宮殿の中では、服装が厳しくて宮殿や王様のことをとても大切にしているのだと思いました。

三日目は一番楽しみにしていたマッサヨン・プラチャニウエート学校に行きました。学校に着いた時に、たくさんの生徒たちが迎えてくれてとてもうれしかったです。校内ではバディという案内役を引き受けてくれたの子と手をつないでいろんな場所を見学させてもらったり、体験をさせてもらいました。日本語の授業を体験したときには、挨拶の練習をしました。タイの生徒たちは日本語で、私たちはタイ語で挨拶をしました。お互いに理解しやすい言葉、英語・タイ語・日本語が交わる不思議な空間でしたが、それなりにコミュニケーションがとれたのでとても楽しく、新鮮な体験でした。音楽の授業ではタイ舞踊を踊りました。そのときに先生が「タイ舞踊を踊る時は、笑顔で踊らなければいけない」と言っていました。穏やかなタイらしさをその言葉からも感じました。数学の授業も受けました。sin、cos、tanの値を手指を使って計算する方法を教えてもらいました。数学の教室は、日本のようにみんな一人ずつの机に座って、静かに先生の話聞くだけでなく、五人くらいの机にみんなが向かい合って座り勉強をしていました。先生が説明を始めると、タイの生徒は、わかった人がわからない人にどんどん教えていきました。私は当初、先生の話聞かなければいけない、先生が話をしている間は静かにしていなければいけないと思っていましたが、タイの生徒たちはとても生き活きと積極的に授業に参加していて、私も授業がとても楽しかったです。日本の学校とはぜんぜん違うと思いました。日本ほど豪華ではありませんでしたが、給食も食べました。一つのお皿にタイ米とスープを入れたものでした。このスープに限らずタイで飲むスープはとても辛かったです。食堂でバディの子が、自分の友達をたくさん紹介してくれました。当然お互いに初対面だったのですが、お互いに名前を聞いたりするだけで楽しかったです。体育の授業ではシェアボールというバスケットボールに似たスポーツをしました。周りにいる子たちが、声を出して応援してくれたり、跳ってくれたりしてとても楽しかったです。シェアボールが終わってからみんなと一緒に踊りました。いろんな人が「Follow me」と言ってくれてとても嬉しかったです。みんなで踊るときはすごく楽しかったです。そのあと日本から訪問したメンバー



全員で法被を着てソーラン節を踊りました。タイの人たちが楽しんでみてくれてとてもうれしかったです。



次の日から二日間ホームステイに行きました。ホストファミリーは四大家族、そしてたくさんの犬や猫を飼っていました。

一日目はウィークエンドマーケットに連れて行ってもらいました。そこは、日本の市場みたいな感じの場所で楽しかったです。またその日の夕方には近所の公園に行きました。公園には人がたくさんいて、備え付けのトレーニング用の器具がいっぱいあって、タイの人は運動が好きだということが分かりました。夕食は、夜だけ道に開かれる屋台で食べました。その中の一品に「sushi」と言われるものがありましたが、日本の寿司とは全く違い、筒のようなものにタイ米を詰めたもので、ほかのおかずの汁をつけて食べるものでした。他の日本食レストランに行っても、寿司と書かれていても天ぷらがのってたりして、生の魚がそれらしく乗っている寿司っぽいものには結局出会えませんでした。機会があれば、本当の日本食、特に私の大好物の寿司をタイの人達に紹介したいです。

ホームステイ二日目は、水上マーケットに行きました。現地の人がいっぱい来ている姿

も見かけましたが、とにかく観光客がとてたくさんいました。

最後の日にワットプラケオを見学しました。そこは昔のタイの宮殿と案内の方に教えてもらいました。そこでは、タイの宮殿やその歴史についても教えてくれました。

私は、この派遣でタイの人とたくさんコミュニケーションをとりたいと思っていましたが、英語で思っていること話す・伝えることは思った以上に難しかったです。しかし一方で、タイの方たちがゆっくり話してくれたり、何回も聞いてくれたおかげで、楽しく会話することができました。私をもてなしてくれたタイの方々の姿を見て、コミュニケーションに大事なものは、相手の気持ちや考えていることを、知ろうと努力することだと思った反面、自分の考えをより正確に伝えるためには高い語学力が重要であることを改めて思い知らされた派遣旅行でした。次にタイに行くときまでに、寿司を正しく説明できる英語力を身につけたいと思います。

最後にこの派遣旅行のために愛知県そしてタイ国で私達のために時間を割いてくださったすべての皆さんに心から感謝します。

## 愛知県高校生訪問団バンコク都派遣 報告書

愛知県立豊田北高等学校 2年 川上夏海

- 1 事業名： 愛知県高校生訪問団バンコク都派遣事業
- 2 目的： 現地高校生との交流、現地視察を通じて異文化理解を深め、国際感覚を育み、グローバル人材としての育成を図る。
- 3 派遣先： タイ王国バンコク都
- 4 派遣期間： 平成27年8月5日(水)～8月11日(火)
- 5 派遣報告書：

### DAIWA KASEI (THAILAND) CO., LTD. (6日)

会社の概要説明を受けたのち、工場見学を行った。設立時のことから洪水被害のこと、タイ人との関わり方についてなどをうかがった。

#### 工場見学

工場内を回らせていただき細かい説明を受けた。会社が常に改善点を見つけそれに取り組んでいるという印象を受けた。

#### 会社の説明

タイ人との交流の話が印象に残った。日本人の考え方を押し付けることはせず、かつ日本人の常識で理解してもらわなければいけない部分は教育する、そのバランスの大切さを学んだ。

### バンコク都立プラチャーニウェート高校訪問(7日)

Welcome ceremony を行ってもらったのち、タイ文化・日本語・数学・タイ舞踊・体育の授業を受け、昼食を頂き、閉会式を行ってもらった。

#### Welcome ceremony

タイ舞踊を見せて頂いた。また、日本の国歌を演奏して頂いたり、生徒たちの歓迎ぶりに驚き、とても嬉しかったので、日本で高校生を迎える際はこのような ceremony を行うといいと思った。

#### 授業

すべての授業で日本とは異なる点があった。印象に残っているのは日本語、数学、体育の授業。日本語の授業では普段当たり前話している日本語がどのように教えられているのか、と不思議な感じがした。数学の授業の内容は日本で習ったことであったが、日本の教え方と違ってなおかつそれが分かりやすく驚いた。席も日本の一般的な並べ方と違ってグループワークができやすくみんなで教え合いしやすい並べ方で、日本でも少し取り入れられるといいと思った。体育の授業ではシャボンというスポーツをみんなで行った。休憩の時に見せてくれたダンスがかわいらしく自由な校風を感じた。授業全体を通じて、その国の文化にあった教育が行われていることがわかった。





【左：写真1】数学の授業後



【左：写真2】閉会式の前 よさこいの法被

全体を終えて

同世代の違う価値観を持った子との交流は発見が多くとても面白かった。また話すだけではなくその場に自分が行き肌で空気を感じることが出来たのもよかった。

### ホームステイ（8日～9日）

概要

ホストファミリーの名前：Mrs.Somluck Thammarat

家族構成： 父・母・兄・姉・弟 5人家族

行程：8日8時 ホテルへ迎えにきてもらう

お寺・宮殿へ観光

夕方 ホストファミリーの家に到着

夜 家でチキンカレーを作り夕食としてとり 多種のフルーツも食べた

ファミリーと会話をし就寝

9日午前 水上マーケットのある島へ行き島の周りをクルージング

夕方 ショッピングセンターやマーケットへ行く 夕食をとりホテルへ

ホームステイ行って

ホームステイ先は本当にいい家族で、私をいろんなところに連れて行ってくれ、タイの文化にたくさん触れさせてくれた。どの場所に行っても「これはだよ」「タイでは～」と説明もしてくれた。食事や住まいも日本と異なる点はあったが、共通点もあり、面白かった。直接自分でみて自分で感じたことは財産になると思うので、日本の友人にもこの経験を伝えたいと思う。



【左：写真3】ホストファミリーと島のお寺へ



【左：写真4】ホストファミリーの家

### 派遣事業全体を終えて

今回のこの事業では同世代との交流と初めてのホームステイを特に楽しみにしていた。文化が違えば考え方も違う、ということはわかっていたが、今回は今まで経験した海外渡航の中でも一番現地の人と触れ合うことができたので、それをより感じました。ですがそれ以上に共通している点やタイの人の温かさを感じられ、とてもいい経験になりました。この濃かった毎日を周りの人々に伝え、自分だけでなく周りの人々にとっても意味のある事業にしたいと思います。





# 愛知県・バンコク都 高校生交流事業 報告書

愛知県立西尾高等学校 伊藤周

## ● バンコク都知事表敬訪問

知事はとてもおだやかな方で、私たちの訪問を歓迎してくれた。そして表敬訪問の間ずっと微笑んでおられた。日本とタイのギフト交換の時、私たち高校生にもプレゼントをくださった。

## ● バンコク都立プラチャーニウェート高校訪問

学校に到着すると、1日一緒に行動するバディーを始め多くの生徒たちが出迎えてくれた。

歓迎会は、マーチングバンドや踊りなど盛大にもてなされた。また、私たちは一人ひとり自己紹介をした。



## [授業]

**社会** 僧侶から、タイの仏教である上座部仏教を学んだ。

僧侶には約200の戒律があることなど、仏教に関することをバディーからたくさん教えてもらった。

**日本語** 日本の生徒はタイ語、タイの生徒は日本語で自己紹介をした。

**数学** 三角比を学んだが、答えを出す方法が日本と全く違った。

**タイ舞踊** タイ舞踊はゆったりとした音楽と踊りで、とても美しいと感じた。

**スポーツ** バasketボールに似たスポーツをした。タイの高校生のチアリーディングは迫力があつた。

## [Farewell]

私たち日本の高校生は北海道の民謡であるソーラン節を披露し、バディーに法被をプレゼントした。

## ● ホームステイ

ホストファミリーと水上マーケットに出かけた。

朝食にえび、かに、魚などを食べた。

その後はボートに乗り、川を進んで寺院に参拝した。

プラチャーニウェート高校で教わった参拝方法を実践する機会があつた。

日本の文化を伝えるために、ホストファミリーと



書道を楽しんだ。私は「侍」と書いた。ホストファミリーには「グッドラック」という意味のタイ語を書いてももらった。書道を海外の人に伝えることができてうれしかった。



### ● ワット・プラ・ケオ等見学

約200年前に建てられた仏教寺院

現地のガイドから英語で説明を受けた。

建物はガラスや金が多く使われ、とても美しかった。



### <まとめ>

今回の交流事業では、多くの発見や学ぶことがあった。まず、人とコミュニケーションをとることのおもしろさだ。初めのうちは英語を聞き取ることに必死だった。しかし身振り手振りで伝えているうちにだんだんと慣れてきて、意思疎通ができるようになってくると本当に楽しいと感じた。自分の英語力はまだまだであることも痛感したので、もっともっと英語を勉強して、すらすらと話せるように努力したい。

多くのタイ人と接して感じたことは、皆が明るいということだ。特に印象的だったのはタイの高校生との交流だ。最初に会ったときからとてもフレンドリーに接してくれる人が多く驚いた。街で見かける人やマーケットの店員も、表情が明るい人が多く、タイの人は全体的に前向きで活気がある印象を受けた。

タイで学んだことは、これから多くの人に伝えていきたい。

# 愛知県高校生バンコク都派遣を通して

刈谷北高校 酒井惟司

僕がこの派遣で学んだことを報告したいと思います。

## 1つ目：ホームステイについて

日程 1日目：水上マーケット(食事)→寺院→ガーデン→食事→チャトチャック weekend market→夕食→家

2日目：食事→ノンヌット・トロピカルガーデン→食事→ナンラムビーチ→食事



感想 1日目：寺院とガーデンめぐりは船で移動したためこの歳ならわくわくしました。水上の移動中では、水上でのタイの地域の伝統的な生活を見ることが出来て良かったです。その中で水上ポストが一番印象に残っています。ポストが水辺近くにあるということは水上での生活に依存していると感じました。寺院に行った時は観光客以外の参拝人がいたり、ボートの上から見えた各家庭に小さな参拝する場所があったりとタイ人は信仰心が強いと感じました。チャトチャック weekend market では僕と伊藤君の買い物に付き合ってもらい申し訳なかったが、ホストファミリーが値下げを手伝ってくれたり商品が不良品でないかを確認してくれたりしました。その日会ったばかりの僕にそのような優しさがあるタイ人はすごいと思いました。

2日目：朝食は道沿いにある屋台でチキンライスを食べました。ホームステイのいい所の1つ、現地の人と同じ生活が体験することが出来て良かったです。やはり、「郷に入っては郷に従え」と感じました。ノンヌット・トロピカルガーデンでは、ゾウに乗りました。タイに来たら本場のゾウに乗らないと損だと感じました。その後に行った海



はとてもきれいでブーケットに行かなくてもバンコクから2時間くらいできれいな海に入れることが分かりました。

最後にホームステイの研究について。僕はこの派遣の中のホームステイでタイ語について研究しました。タイ語の文章の最後に付くカーやクラブはなぜ男女で違うのかという疑問については解決できませんでしたが、タイでは日本と同じように年配者には敬称を用いる習慣があることが分かりました。

## 2つ目：高校訪問について

日程 オープニングセレモニー→仏教→日本語→昼食→数学→タイダンス→体育  
(share ball)→エンディングセレモニー



感想 オープニングでは盛大なタイ舞踊や合奏などで迎えてくれました。日本での歓迎会はもう少し小規模なのでとても驚き、感動しました。仏教の授業は今までに感じたことのない不思議な感じでしたが、タイだからこそ受けられる貴重な授業となりました。僕は刈谷北高校で理系コースであるので、数学の時間は特に印象に残っています。内容は三角関数で、手と指を使った簡単だけど日本では教えられていない新しい考え方を学ぶことが出来ました。この方法は画期的だと思うので学校の友達にも教えてあげたいです。また、体育の時間では share ball という日本のポートボールのような競技をしました。そこでは、自分がタイにいるということを忘れるほど真剣に取り組み、また楽しむことが出来ました。さらに share ball 後にあったダンシングタイムはタイ、日本両国の生徒がお互いに楽しむことが出来ました。エンディングセレモニーでは僕たち愛知県派遣団のソーラン節を発表しました。おそらく生徒も楽しんでくれたと僕は思っています。

## 派遣を通して感じたこと

タイ人の優しさ…僕の英語が通じないときも必死に聞いてくれて、年上年下の文化があるせいかなんでも買ってくれました。またお腹は空いていないか、喉は渴いていないかなどを尋ねたりしてくれました。さらに、タイ現地の人は日本人の僕に気軽に話しかけてくれて、とても楽しかったです。

日本のすばらしさ…日本の外に出てこそ日本のすばらしさを感じることが出来ました。タイは年中暑いお風呂に浴槽がなくシャワーだけだけれども、日本は四季があるから浴槽があること、またタイでは生水を飲むことは勧められていないが、日本では水道水を普通に飲むことが出来ることに感謝すべきだと感じました。

追記 次回からの海外研修に役立ててほしい点

- ・ 各訪問時の手土産は出来るだけ多い方がいいと思います。細々とした物をたくさん持っていくなど。
- ・ プラチャニウェート高校の生徒が僕たちに渡していたような name カードを各自用意した方がいいと思います。
- ・ 高校などでアクティビティがあると事前に分かっている時は着替えの準備をするように伝えておくといいと思います。
- ・ 寺院(今回行ったワット・プラケーオなど)はサンダル、タンクトップなどとともにダメージパンツもいけないことを事前に伝えておくべきだと感じました。
- ・ 高校では一部の生徒にしか英語が伝わらない可能性もあるので、日本語からタイ語への通訳がいる場合は日本語でスピーチをし、通訳してもらった方がいいと思います。







## バンコク都派遣報告

今回の派遣で学んだ3つのことについて以下の通り報告します。

1. 英語力の大切さ
2. タイと日本の文化の違い
3. タイと日本の生活環境の違い

### 1. 英語力の大切さ

出発する前も英語力は大切だと思っていましたが、日本語の通じない国に実際に行くことで英語力の大切さを身にしみて感じました。例えば、ホームステイをした際に言いたいことが伝わらず、何度も説明することがありました。後からこう言えばよかった、と思うこともたくさんあったのですが、思ったことをすらすらいえるようにしていきたいです。

また、話すだけでなく、聞き取る力も必要だと思いました。タイの人は普段使っているタイ語からか、イントネーションが少し違うと感じました。これから英語を話すときにはそのような違いも学んでいきたいです。

幼いころから英会話を習っていますが、実際に現地で初対面の人と話すとはやはりうまくいかないことが多かったのですが、この反省を活かし使えそうなフレーズはまとめておいたり例文を作って話してみたりと、今後の英語学習に活用していきたいと思います。

右側がパディのフロントさん



ホストファミリーのみなさん



### 2. タイと日本の文化の違い

アユタヤ市内視察やワット・プラ・ケオ見学では豪華な建物を見ました。外観は黄金色のもが多く、日本の寺とは全く違うと思いました。日本では天皇制、タイでは国王制と知りましたが、具体的に何が違うのかわからなかったので今後調べていきたいと思います。

また、タイは仏教を重んじる国で、高校の社会の授業では仏教を学んでいました。

日本の社会の授業では歴史などを学びますが、仏教を学んでいることにとても驚きました。

僧侶の位が高く、とても興味深い内容でした。具体的には、お供え物のつつみ方や寺院での挨拶の仕方を学んでいました。日本も多くが仏教徒ですが、寺や神社にお参りに行くことはあってもきちんとお供え物をすることがないので高校で実際に学ぶことができよかったです。

アユタヤ



ワット・プラ・ケオ(ワット・サケート)



アンコール寺院の模型



### 3. タイと日本の生活環境の違い

日本と比べて洪水が多く発生します。2日目に訪れた大和化成工業株式会社でも被害に遭っていました。一年中暑く、その為南国のフルーツが多く気候によっても食べ物が全く違うと思いました。

また、タイに行き一番感じたことは発展地域とその他の地域の差です。空港の近くには高層ビルや看板が立ち並んでいましたが、一本道に入ったようなところに行くと、ゴミがたくさん落ちていました。川もあまりきれいとは言えず、濁っていました。大和化成工業株式会社訪問をしたときに、まずワーカーさんにゴミの分別を教えると言っていたので、日本のようにゴミ箱に分別して捨てる習慣がないと思いました。タイではゴミは罰金制度がありますが、そのような罰則がなくてもきれいになるような社会になればいいと思いました。

市内の様子



大和化成工業株式会社



### 感想

6日間を通し、タイの人々の生活や習慣、文化に実際に触れることで、ガイドブックなどでは知ることのできない、事前に調べていきましたが、車から見える景色や街の様子など自分の目でみることで感じるものがたくさんありました。例えば、日本では野良犬があまりいないですが発展していない場所で落ちていたゴミ目当てでやってくる野良犬をたくさん見かけて怖かったです。

多くのタイの人たちと触れ合うことができましたが、日本人と比べて笑顔を絶やさないことやコミュニケーションに対して積極的な方がとても多いため、すぐに打ち解けることができました。

このようなタイの人々の温かさ、そして心配りができる繊細さを肌で感じました。

私は今回のバンコク都派遣でタイは今では発展途上ですが、さらに発展していくと思います。

そんな、タイの人々のパワーやエネルギーを感じました。

一つ残念だったのは、高校訪問の際に披露する予定だった書道ができず、またホストファミリーでも時間上日本の文化もたくさん教えようと思っていましたが、タイの文化を学ぶばかりではじめからホストファミリーに伝え、きちんと時間設定をしておけばよかったと思いました。

タイの人は日本人に比べると時間にルーズなところがあるので、確実にできるよう言うておく必要があったと反省しています。

また、ホストファミリーやパディの子に伝えたいことが伝えられない時のもどかしさや、自分の英語力の未熟さを痛感したので、次に海外に行くときに今回の経験を活かしたいと思います。



# バンコク都派遣で学んだこと

豊橋東高等学校 渡邊なな実

私は、4年間タイに住んでいたことがあります。帰国してから、住んでいた時には気づくことのできなかったタイの素晴らしさに気づき、その素晴らしさをもう一度、自分の目で見て再確認したいと思い、今回のバンコク派遣プロジェクトに参加しました。そして、この一週間を通して、タイの良さを再確認するだけでなく、タイと日本の文化や習慣の違い、今まで気づくことのできなかったことなど、本当にたくさんを学ぶことができました。

## タイの人々の優しさ

バンコク都派遣を通じて、沢山のタイの方との交流がありましたが、その中でも特に、タイの方の優しさを感じたのは、プラチャーニウェート高校との交流でした。高校訪問では、派遣メンバー一人一人にバディーの高校生がいて、参加させてもらった授業では、先生の言っているタイ語を、英語に通訳してくれました。交流した一日ずっと私のそばにいてくれて、私の拙い英語を理解してくれようとしてくれたことが、とても嬉しかったです。そして、日本語の授業では、バディーの子だけでなく、沢山の高校生と会話をすることができ、とても良い経験になったと思いました。お別れの際には、涙がとまりませんでした。





## ホームステイを通して

2日間のホームステイでは、沢山の経験をさせてもらいました。タイで有名なニューハーフショーを見たり、海に入ったり、象に乗ったり、すごく充実した2日間を過ごさせてもらいました。ホームステイでは、コミュニケーションをとることの大切さを学びました。ホストファミリーのお母さんとお父さんは英語が話せませんでした。その時の表情などで言っていることが何となくわかったり、娘さんは英語が話せて、私の言ったことを理解してもらえた時は、とても嬉しかったです。将来私は英語や、ほかの言語を使って、仕事をしたいと思っていますので、さらに、英語の勉強を頑張ろうと思いました。



## 全体を通して

バンコク派遣の一週間で、改めてタイは本当に素敵な国だと思いました。そして、ぼんやりとしか考えていなかった、将来の夢が明確になりました。夢を叶えて、もう一度タイに戻ってこられるように努力していきたいです。この派遣プロジェクトでは沢山の人がお世話になりました。ありがとうございました！



(参考)

「愛知県高校生訪問団バンコク都派遣事業」参加者アンケート(まとめ)

名前： \_\_\_\_\_

この度は「愛知県高校生訪問団バンコク都派遣事業」にご参加いただき、ありがとうございました。今後の参考とするため、アンケートにご協力ください。

1. どうして今回の派遣事業に参加しようと思いましたか？チェックしてください。

- (1) 国際交流に興味があるから【10】 複数可  
(2) タイに興味があるから【8】  
(3) 家族や学校の先生に勧められたから【1】  
(4) その他【3】

- ・タイの人々や美術に興味があった。
- ・実際に文化に触れてみたいと思った。
- ・タイの良さをもう一度知りたいと思った。

2. 今回の訪問先の中で印象に残ったところはどこですか？

以下の a~f の中から三つを挙げ、理由を書いてください。

a. バンコク都庁【2】

- ・都知事に表敬訪問できる機会はめったにない。
- ・イメージしていたタイとは違うリアルなタイを見れて良かった。

b. DAIWA KASEI【0】

c. プラチャーニウェート高校【10】

- ・同年代のタイ人と交流できた。
- ・タイの高校生活を肌で体験できた。英語を活用できた。
- ・コミュニケーションがとれ仲を深めることができた。たくさんの友達ができる。
- ・歓送迎会のセレモニーが印象的で感動したのを今でも忘れられない。
- ・タイの高校生はとても親しみやすく、日本のことをたくさん勉強していて驚いた。
- ・タイの授業は日本と違って新鮮だった。
- ・個人的な旅行では体験できないため。
- ・実際の授業に参加でき、バディの子と仲良くなれた。

d. ホームステイ【10】

- ・普通の観光では体験できないような体験ができた。
- ・タイ人の親切さと温かさに触れ、一生のタイの家族ができた。
- ・タイならではの家庭料理や生活様式を学べた。
- ・帰国後も連絡を取り合いお互いにタイ語・日本語を学べるところが良い。
- ・ホストファミリーはみな優しく、色々な経験をさせてもらった。
- ・タイの庶民の生活スタイルや交通手段を体験できた。

e. ワットプラケオ【7】

- ・応募動機のタイの仏教美術が見たいという願望を果たすことができた。
- ・タイ独特の豪勢で立派な建物を見て感動することができた。
- ・タイの観光名所を見学でき、文化の違いを面白いと感じた。
- ・タイの歴史や文化について学び、寺院と王様の関係が分かった。

f. その他【1】

- ・町の中を歩くことで、日本とは全く違う雰囲気を見ることができた。

3. 以下のプログラムの感想を記入してください。

(1) プラチャーニウェート高校訪問

- ・たくさん友達ができ、現地の学校生活を知ることができ、とても有意義だった。
- ・英語をたくさん使い、英語で話す素晴らしさを改めて実感できた。
- ・1日はとても短かった。到着時に、学生が歓迎してくれて嬉しかった。
- ・全ての学生が話しかけてくれて、暖かさがにじみ出ていた。
- ・数学の授業が日本とは全く違う方法の授業で驚いた。
- ・三角関数の覚え方で実際に手を使って考えるのに驚いた。
- ・学校の歓迎ぶりが凄く驚いた。
- ・日本の高校と共通している点や異なる点をたくさん見れて面白かった。
- ・最後にバディの子が泣きながらお別れをしてくれ印象深く良い経験になった。
- ・タイの高校生はみな元気が良く積極的だと感じた。
- ・日本には無い仏教の授業やバディとのシェアボールなど貴重な体験ができた。
- ・バディが先生のタイ語を英語に丁寧に訳してくれて嬉しかった。
- ・家族のことや日本のことを話すことができ、本当の良い交流ができた。

(2) ホームステイ

- ・一緒に過ごす時間が長く、たくさん話ができ、タイのことを教えてもらうことができ、来て良かった。いろんなところに連れて行ってもらった。
- ・タイの生活を体験できた。ホストファミリーだけでなく、タイ人の温かさが分かった。タイ人の家族ができ、本当に一番心に残ったプログラムとなった。
- ・一週間で最も良かった経験。もう少しホストファミリーと過ごしたかった。
- ・はじめは緊張して話せなかったが、ホストファミリーからたくさん話しかけてもらい、一緒に料理することで仲良くなれた。
- ・相手が英語を話せなく、お互いに言葉で伝えることがとても難しかったが、伝わったときはとても嬉しかった。バイクでの移動や露店での食事など楽しかった。
- ・ホストファミリーが一つ一つ丁寧に教えてくれ、本当に嬉しく楽しかった。1泊2日であったが、非常に濃い日になった。
- ・ウィークエンドマーケットでの値切り等が心に残っている。



- ・英語が堪能でなくても気持ちを込めれば伝わることを感じた。しかし、言語を学ぶことはやはり重要だと感じた。
- ・ホストファミリーが真剣に話を聞いてくれて過ごしやすかった。英語の大切さを学んだ。
- ・少し知っているタイ語を理解してもらえたときは本当に嬉しかった。

### (3) その他

- ・バンコク都庁訪問：日本とタイの絆を強く感じた。英語での自己紹介は緊張した。皇后や王様を大切にす文化に驚いた(都庁前に皇后の誕生日を祝う垂れ幕あり)。
- ・買い物：タイの店では日本には無い値段交渉ができて、タイらしさを感じ、店員とコミュニケーションがとれて楽しかった。
- ・タイ料理：美味しいものが多く、また食べたい。
- ・寺院：バンパイン宮殿やワットプラケオなどの綺麗な寺院は印象に残っている。タイ人は日本人に比べ信仰心が強いと感じた。
- ・企業訪問：洪水の影響やタイ人との接し方などホームステイでも役立つようなことが聞けてよかった。
- ・バンコク都の職員がゆっくりと何回も英語で話しかけてくれて嬉しかった。

### 4. 滞在期間中、困ったことや不便に感じたことがあれば、記入してください。

- ・ホームステイには2人で行きたかった(一人でたくさんコミュニケーションを取ることではできたけど、不安だった)。
- ・高校訪問の時に名刺があると良いと感じた。
- ・ホテルの部屋にWiFiがなかった(翌日に訪問する場所の情報収集したり、日本の家族や友達と連絡を取るためにわざわざロビーまで行くのは大変)。
- ・バンコクの交通量が多すぎて信号・横断歩道があるにも関わらず、全然渡れなくて大変だった。
- ・英語のイントネーションの微妙な差で、たまに伝わらないことがあった。

### 5. このような派遣事業を来年以降も実施することを検討していますが、どのようなプログラムがあると良いと思いますか？チェックしてください(いくつでも)。

- (1) 博物館や美術館などの訪問【3】
- (2) 伝統芸能の鑑賞・体験【8】
- (3) 県進出企業の訪問【1】
- (4) 高校生との交流【10】
- (5) ホームステイ【10】
- (6) その他【1】(日本の紹介)

## 6. 事前説明会について改善点があれば自由に記入して下さい？

例：内容、回数、知事表敬など

- ・高校で出し物を発表する機会があったので、準備や練習を事前説明会でできればと思った。
- ・他の派遣高校生とのコミュニケーションが一度しかないので不安だった。
- ・出発日に近い日にもう一度集まりたかった。
- ・福岡県の高校生と高校訪問が一緒になり、送迎会での発表が寂しく思えたので、何度かその発表に向けて練習ができるとよいと思う。
- ・派遣高校生同士が仲良くなるために回数を増やした方がよいと思う（豊橋などから名古屋に来る人は電車賃がかさむため、どっちとも言えないですが）。
- ・高校生との交流の際の発表を準備する日がもう一日あるとよいと思う。

## 7. 全体について、感想を記入してください。

- ・バンコク都職員も優しく何でも質問しやすい雰囲気だったので安心して過ごせた。タイについて、もっと知りたい、また行きたいと思うようになり、参加できて本当に良かった。
- ・本当に素晴らしい経験になった。タイ人の温かさに触れ、寺院などを見てタイが凄く好きになり、海外に対する興味や関心がもっと深まった。もっといろんな国の人と交流したい、もっと英語を上達させたいと思った。
- ・とても良い経験になった。現地で困ったことも無く、愛知県の派遣高校生としてタイへ行けてよかった。
- ・一番年下であったが、みんな優しく助けてくれた。同部屋の人とは初め話せなかったが、だんだん仲良くなりとてもよい経験になった。現地の人温かく笑顔で接してくれ、タイ人が好きになった。
- ・初めての海外で全てが新鮮だった。この派遣でしかできない高校・工場見学や知事表敬、ホームステイなど貴重な体験ができとても良かった。
- ・旅行に行くだけでは味わえない素晴らしい体験がたくさんでき、本当に実のあるものになった。
- ・とても有意義な派遣だった。多くのタイ人と接したり、日本以外の環境を体験することで、自分の視野を広げることができた。日本とタイの友好を少しでも深めることができた。
- ・高校の授業、ホームステイ、その他の訪問を通じて学んだことを学校の友達に伝え、またユネスコ部のメンバーに伝え話し合っていきたい。
- ・毎日の内容が濃く、どの日をとっても多くの事を学べた。タイへ行く前は不安もたくさんあったが、実際に行ってみると真剣に話を聞いてくれたり、とても優しい人が多く嬉しかった。またいつかタイへ行きたいと思った。
- ・タイは本当に良い国だと改めて思った。言語が違っていても、同じ時を一緒に楽し

むことができ、とても嬉しかった。この一週間で自分の夢である海外とつながり  
のある仕事をしたいという気持ちが強くなった。